

Title	三橋富治男著, 東洋文明の史的系譜
Sub Title	
Author	和田, 博徳(Wada, Hironori)
Publisher	三田史学会
Publication year	1955
Jtitle	史学 Vol.28, No.2 (1955. 9) ,p.137(269)- 137(269)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19550900-0137

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

磨崖佛もよく、室生寺隨筆もなかなかにして難い味をもつていて、遊心を新ならしめるに十分である。

本書に唯一の遺憾は高價という點である。しかし「物は賣られ得るだけ値する」本書の内容としては當然であろう。

(淺子勝二郎)

三橋富治男著 東洋文明の史的系譜

昭和三十年一月 三和書房

廣大にして複雑なアジア各地域の歴史を統一して系統的に組織することは頗る難事であり、次に紹介するグルッセ氏の書はこの意味に於いて貴重な業績であるが、我々は前島博士の翻譯と偶々時を同じうして、こゝにも一つ同様な企圖を持つ本書の刊行を見るに至つた。本書の著者三橋富治氏は本塾史學科出身の東洋史學者で、序文によると、本書の成立は新制大學の教養史擔當が直接の機縁をなしたが、「歴史を偶發的な諸事實のモザイクとしてでなく、その中より人類進歩の深い意味を汲み取らうと努め、出來うれば廣くアジア各地域の環境、生活様式、社會條件などを對比しながらそれぞれの生んだ文明を分析し、かつその系譜を辿つてみたかつた」と言はれる如く、誠に獨自行な新構想に基づく意欲的な書物であつて、單なる概説書やテキストの類ではない。本書は第一章序説、第二章總論、第三章各論、第四章總括の四章に

分れ、總論は中國若しくは東亞中心の東洋史を排し、廣く西亞を含めたアジア全體に互る東洋史成立の可能性を提唱し、東亞、西亞兩文明の特質と態様及び兩文明の交流について論じ、東洋史を佛教の傳播、蒙古の統一、西力東漸、資本主義の侵入という四つのモメントを以て、各時代に大別出來ると主張している。各論は中國・インド・東南アジア・西アジア等の各地域別にアジア全體の歴史と關連せしめつゝ史的展望を行つている。要するに本書は普通の概説書の域に止まるものではなく、從來、とかく各個別々に説かれていたアジア各地域の歴史を有機的に統一せしめようとした書であつて、啓發される所が頗る多い。(和田博徳)

前島信次譯 ルネ・グルッセ「アジア史」

一九五五年一月 白水社

一九五二年に逝去されたルネ・グルッセ氏が東洋學の大家であつたことは周知の所である。特に我々には一九四九年、佛國の文化使節として來朝されたので、なほ一種の親愛の感さへあつて、その著書繙讀の念切なるものがある。今回、本塾文學部講師、前島信次博士によつて、本書が翻譯されたことは吾々のかような喝望を正に癒すものであると思う。

本書のまえがきに譯者も述べてをられるようにグルッセ氏はアジア史を既に幾度も著している。初めてアジア史を世に問うたの